

## 春彼岸追悼回向の文

敬って真言教主、大日如来、西部界会、諸尊聖衆、殊に総じ  
ては東方山安養寺本尊薬師瑠璃光如来、当観音堂本尊観世音菩  
薩に白して言さく。

本日は春彼岸会を謹しんで迎えるに当たり、六年前に当時の  
春彼岸追悼回向文において『一瞬にして万余の尊き人命を津波  
がのみ込む。そして祖先より賜りし財産、営々として稼ぎため  
し財物の家屋はもとより治産の場を失う。日本国中がおののき  
世界の国々から惨状を心痛する声とどくも、自然界の過酷にし  
て残酷極まる仕打ちに天を恨み地に号泣する、余りにも無力に  
して非力なる人間の限界を知れり。ここにわれら目を閉じ低く  
頭こうべを垂れ哀悼の誠をささげ亡き人々の冥福祈って恭しく彼岸  
会を厳修する』と読み上げる。東日本大震災の犠牲者への慰霊  
なり。

おりしも同年の一月二十一日は当山の直子寺族夫人・法号寂光  
院覚苑慈祥大姉の往生素懐に当り、共に悲涙に暮れゆきて痛恨  
断腸の思い禁ずることを得ず。無常迅速じんそく、月日は流れていずも  
七回忌を迎える。さる一月二十一日は直子寺族夫人の七回忌を  
熊谷俊亮住職、道玄法嗣のもとで肅々と、心情手厚く慈愛深く、  
丁寧を極めてつとめ上げられる。

「年年歳々さいさい、花相似あいにたり、歳々年々人同じからず」とは、中国唐

代の詩にあるとおりに、誠に人の世の儂はかなきことは邯鄲かんたんの夢、つま

りは栄枯盛衰にして夕べの露つゆ、晨あしたの霜しものようなものなり。

されども、儂なき人生この諸行無常、常ならぬ世の中で人の苦しみ辛さをのり越えて、仏の慈悲と智慧を授かる。希望に満ちあふれた安養の世界へと渡る心の再発見が、この春彼岸における尊いおしえなり。

彼岸とは仏の心、仏の境界きょうがいにして仏のおさとりなり。彼岸かは永遠に光明に照らされた世界をいう。彼岸、光明の世界へ

渡るには、一つ、布施ふせがある。とり込む一方ほどこでなく施ほどこしの心を

養う。二つ、持戒じがい―約束事を守る、三つ、忍辱にんにく―辛抱強く侮辱ぶじよく、迫害からも耐え忍ぶ。四つ、精進しょうじん―努力をおしまず継続する。

五つ、禅定ぜんじょう―イラ立たず心を静めて仏の教を聴こう。六つ、智慧―まことの教えに接せっし仏に向う。彼岸の反対はこの世でこの岸しがん、此岸しやばといい娑婆しゃばである。憎にくみ合い、妬ねたみ合い、不安のたまりのなかで心寂じやくしきものなり。

されどさきの六つ、六波羅蜜の教えを実行すれば彼岸ろくはらみつ、彼岸は遠くにあらず、わが心の中にあると説かれている。

さらに真言宗宗祖弘法大師さまは、次の四つも心得えよとお説さつしさされている。

慈じ―いつくしみ、他人を愛する心、樂らくを与えよ。

悲ひ—他人の苦しみを知る心、あわれみの心で苦を除き去る。

喜き—他人の幸福を知る心（よろこび）樂を共に喜ぶ。

捨しゃ—怨み、とらわれを捨て去る心（おもいやり）分け隔てなく接つする。

この慈悲喜捨じひきしやの四つは、量り知れない無量の心むりょうを發揮し他者に樂しみを与える。これを四無量心しむりょうという。

弘法大師さまの六波羅蜜ろくどの六度と四無量心は一切衆生のためともしびに灯きよとなり炬きよ（たいまつ）となり、無明のくらやみを破ってつきぬけると申されている。

この身は全てご先祖より受け継ぐものなり。感謝を込めてお墓まいりをし、万物が躍動する春を迎えて全力投球。人生万歳の勇猛心を発揚し、諸尊諸仏のご加護を伏して乞い願って、踏み出し前進しよう。

家内安全 息災延命 子孫長久

乃至法界 平等利益

平成二十九年三月二十日

京都府向日市寺戸町西垣内

亀光庵

沙門 土口哲光

敬って白す